

第 1 回算数・数学ワーキンググループについて

2015 年 12 月 17 日に中央教育審議会教育課程部会の算数・数学ワーキンググループが開催された。

13:00 から 15:00 まで文部科学省 3 階 2 特別会議室で行われた。

一般傍聴者はこれまでのワーキンググループと同様で 30 名程度であった。

本ワーキンググループは第 1 回目の開催ということもあり、まずは、教育改革調整官の挨拶、委員の紹介、主査ならびに主査代理の挨拶、諮問理由や教育課程部会企画特別部会での論点整理などこれまでの経緯の説明、総則・評価部会特別部会からの伝達事項が伝えられた。

事務局から資料について簡単に説明があり、13:45 頃より議論が始められた。

今回の議題は以下の通りである。

1. 算数・数学教育の改善充実について

また、ワーキンググループで今後検討すべき事項として、次の 4 つが提示された。

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実のあり方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

これを踏まえてこれからの算数・数学教育について、委員よりそれぞれの意見が述べられた。

算数・数学分野で今回特に取り上げられているのは、「統計的な内容等の充実について」である。

これからの社会において、どんな職業においても役立ち、必要とされる分野としてもっと統計を学ばせるべきであるという考えのようだ。

これに対し、多くの委員がその必要性に賛同し、「データの分析」などが高校の必修科目に入っていることを支持する委員もいた。

さらに、現行指導要領の「数学活用」があまり活かされていないことや、社会人になると高校レベルの数学がほとんどできなくなる現状を踏まえ、社会に出たときに数学がどのよ

うに役立つのか、学習する意義や応用について意識しながら学べるように指導要領を改善していくべきだとの意見が出された。

指導方法については、小・中・高でのギャップがあることも指摘された。
現在、小学校では問題解決型の授業が行われ、アクティブ・ラーニングのようなことが既に行われているにも関わらず、中学・高校と学年が上がるにしたがって知識伝授型、説明・演習型の授業となってしまう。

これは、大学受験を控えて時間が不足し、じっくり学ぶことができないことが一因であるという。

小学校と中学校の間についても、今まで学んだこととの関わりに言及することが少なく、全く新しいことを学んでいると誤解する生徒も多いという。

このようなことを考慮して、検討を進めていきたいとの意見で一致していた。

過去の指導要領（昭和43年の「簡潔」「明確」「統合」、昭和30年「数学的な考え方」の記述）について評価する委員もいた。過去を振り返って良いものは残すべきだと述べた。

今後は来年の5月頃まで、全8回開催される予定だとのことである。